

平成29年

雲南市議会 3月定例会
会派代表質問通告一覧表

【会派代表質問日程 平成29年3月3日】

平成29年雲南市議会3月定例会 会派代表質問通告一覧表 目次

順番	日程	会派名	質問者		質問方式	ページ
			議席番号	氏名		
1	3月3日(金) 午前9時30分～	清風雲南	7	白築 俊幸	一括	1～2
2		明誠会	20	深田 徳夫	一括	2～6
3	3月3日(金) 午後1時00分～	フォーラム志民	9	佐藤 隆司	一括	6～10

平成29年雲南市議会3月定例会 会派代表質問通告一覧表

平成29年2月28日

質問 順位	会 派 名 質 問 者 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
1	清 風 雲 南 白 築 俊 幸 (一 括)	1.地域振興について 2.農業について 3.商工業について	(1)本市の地方創生の要は人口増対策であり、その施策を展開中だが、中でも最重要点とされている社会増対策のこれまでの成果と今後の対策を伺う。 (2)UI ターンを含め、町部には人が来るが、周辺部には来て貰えない状況がある。雲南市全体のバランスのとれた発展という観点から、どの様に考えるのか。 (1)農業について ①H30年産を目途とする米の生産調整の在り方について、生産現場では先が読めないことに不安が拡がっている。どう対応していくのか。 ②H28年産のプレミアムつや姫は当初見込みより少なかったようだが、その問題点は何だったのか。 ③今後、プレミアムつや姫をどう位置づけ、どう拡大に取り組んで行くのか。 ④昨今の異常気象に対し、暗渠排水や窪直し等、小規模の土地改良事業の需要が高まっている。事業規模や補助率のアップは考えられないか。 ⑤こうした要望等に対し、事業内容を一覽的に整理し、HP等を通じて農家が簡単に情報を入手出来るよう配慮されているか。 (2)畜産について ①雲南和牛復権に向けた畜産振興の基本的な考え方を問う。 ②本年9月には宮城県で開催される全国和牛共進会を控えている。その対応と支援策及び決意を問う。 (1)商業について ①現下の本市の一大プロジェクトである中心市街地活性化事業について、これまでの進捗とこれからの事業展開を具体的に伺う。	市長 市長 市長 市長 市長

質問 順位	会 派 名 質 問 者 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
		4.教育・健康・福祉について	<p>(2)工業について</p> <p>①神原企業団地の造成が進んでいるが、進出企業からすれば従業員を確保出来るか否かが重大な要因である。市内の新卒あるいは求職状況をどう把握し、企業とのマッチングをどう図っていくのか。</p> <p>(1)中学校の統合について</p> <p>①海潮・吉田・掛合中学校は、保護者や地域住民との協議が整い次第、準備に入るとされている。現在の状況はどうなっているのか。</p> <p>(2)健康づくり拠点事業について</p> <p>①加茂 B&G で展開される温浴施設「健康づくり拠点事業」の意義を改めて問う。</p> <p>②同施設から遠く離れた地域にとっては利用しにくい施設だが、どう対応するのか。</p> <p>(3)高齢者・障がい者福祉について</p> <p>①一人暮らしの高齢者等への支援である緊急通報サービス助成事業だが、同居家族はいるが勤めに出ていて、昼間、高齢者が一人になる世帯には適用されない。こうした家族も多くなる中で、対象を拡げる考えはないか。</p> <p>②介護人材を確保する「UI ターン介護人材確保事業」は、まだ実績は無いようだが、受入れ事業者にとっては使いにくい仕組みとの指摘もある。改善も含め、今後、どのように取り組んでいくのか。</p>	<p>市長</p> <p>教育長</p> <p>市長</p> <p>市長</p>
2	明 誠 会 深 田 徳 夫 (一 括)	1.雲南市の今後のあるべき姿について	<p>(1)総合戦略の「定住基盤の整備」「人材育成・確保」による雲南市のプラチナ社会は実現しつつあると評価されるか伺う。</p> <p>(2)究極のプラチナ社会は、雇用の創出など地域経済の循環型社会を創るということに尽きる。市長の見解と中長期的な具体的な今後のビジョンを伺う。</p>	市長

質問 順位	会 派 名 質 問 者 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
		2.事業計画と財政 運営について	(3)合併以来小規模多機能自治をめざし、地域自主組織の育成に取り組み法人化も 目指されている。全国の先進地である雲南市として、これからの自主組織の課題を どう捉えて、リーダーとして、何を発信していくことが課題かお尋ねする。 (1)大型事業が目白押し、事業計画の変更や設計・計画の詰めがあまりにも多 い、市民が安心できる事業実施計画でなければならない。29年度から5年間の財政 及び実施計画が示された。中心市街地整備計画は28年度から5年間の計画である から、本来なら実施計画と共に財政計画が同時に計上されて当然である。今年この 財政計画は、今後の財政に与える影響が大きいと思うが如何か。	市長
		3.安心なまちづく りについて	(1)島根原子力発電所安全対策の原子力安全顧問について、顧問要綱の第1条関係 に、技術的観点にとどまらず、医療的観点からの指導助言項目を挿入すべきと考 えるが如何か。また、緊急時とは事故時とも解してよいか確認する。 (2)要綱には、助言指導の内容の公開について定めがない。協議の議事録も含め指導、 助言を広く情報公開し、透明化を図り市民の安全確保に役立てるべきと思うが、所 見を伺う。	副市長
		4.中心市街地活性 化計画について	(1)活力と賑わいの創出は地元購買力の向上によって、経済の循環と共に持続可能な まちづくりにつながる大きな要な事業である。元気百貨店・ホテル誘致のみの事業 で中心市街地の賑わいにつながると思われるのか所見を伺う。	副市長
		5.農業政策につい て	(1)所信表明では、今年度の施策の意気込みが感じられない。農業政策が大きく変わ ろうとしている本年の政策について伺う。 (2)6次産業化・食の幸発信事業については、検討期間ばかり続いている。農業に対 する危機感が足りなく、執行部の取組む姿勢が弱い、何故進まないのか原因を問う。	副市長
		6.企業誘致と地場	(1) 雲南市の企業団地の状況はゼロになった。神原企業団地は当初計画より1年遅	市長

質問 順位	会 派 名 質 問 者 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
		<p>産業育成について</p> <p>7.学校教育について</p> <p>8.定住と観光振興について</p>	<p>れで団地なしの空白期間が生まれている。日本立地センターに委託した企業誘致活動、市長の企業訪問が行われているが、その成果はまだ見えない。センターや市長の手ごたえはどのような状況か伺う。</p> <p>(2) 優遇制度の拡充を議会からも求めてきた。必要性を理解しながら何故遅れているのか。日本立地センターにしても優遇制度が不十分では誘致にも力が入っていないのではないかと懸念する。徹底した調査に基づく施策の構築が産業振興センターの役割のはずだが、立地センターなどとの協議がなされているか伺う。また、どの程度の訪問や情報把握されているのか公表のできる範囲で示していただきたい。加えて地場の育成についてどのように捉えているか伺う。</p> <p>(1)ゆとり教育から脱ゆとり教育へ、今後また、小中学校の学び方が変わると言われているが、教育長は、ゆとり教育をどのように整理をされているのか所見を伺う。また現在の教育方針のもとでも学力低下は顕著に現れているが、土曜授業復活も一つの選択肢と思うが見解を求める。</p> <p>(2) 最近の小中の一貫教育は、4年・5年生時の学習能力の急成長と、いわゆる「中1ギャップ」の接続対応に大きなメリットがあると言われ、「6・3制」の見直しを行う自治体が増えたが、その意義と教育委員会の考え方を問う。</p> <p>(3) 現在の中学2年生から大学入試が変わると言われており、来年度から先駆けて試行期間に入り、アクティブ・ラーニングという新しい学び方のようなものであるが、アクティブ・ラーニングによって学力向上など期待できるのか。また、雲南市の取組みはいつから行なうのか。</p> <p>(1)日本遺産に認定された雲南市の文化の魅力を発進する絶好の機会となっている中で、東京・大阪・広島でU・Iターンフェアが開催された。市の手ごたえと参加</p>	<p>教育長</p> <p>産業振興部長</p>

質問 順位	会 派 名 質 問 者 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
		<p>9.がん撲滅の取組みについて</p> <p>10.聴覚障がい児の通学通園に対する支援について</p>	<p>者の分析、何に取り組むべきか検証された結果を伺う。</p> <p>(2)菅谷たたら山内の集落全体を雲南省の文化資源と捉え、歴史的たたずまいを踏まえ「集落自体を活用」する為には、例えば固定資産税の減免やあらゆる町並み保存のための施策を講ずるべきであり、本物を残すことが大切と考えるが所見を。</p> <p>(1)高度医療が必要ながんの発生率は高い。早期受診・早期発見を呼びかけられているが、検診受診率は、3.5%から 10.9%にすぎない。受診率向上には、保健師の役割は大きい、市民との直接対話などが効果的と思うが、検診のみでない啓発は具体的にはどのような活動か伺う。</p> <p>(2)がん対策について、国も本腰をやっと入れてきたが、雲南病院の役割も大きい。先生方の所見が生かされているかを伺い、市の 29 年度予算の施策を問う。</p> <p>(3)がん撲滅対策推進条例など制定し、がん撲滅に向けた総合的な対策を講ずる必要がある。市民に検診を義務付ける等の条例化ができないか所見を求める。</p> <p>(4)がん検診について、多くの助成制度がある。さらに充実させ全てのがん検診について助成制度を設けるなど、他にない特色ある施策として、医療費削減に取り組んでは如何か。</p> <p>(1)松江・浜田にろう学校があるが、幼少から訓練が必要な児童の雲南省からの通園通学には保護者にとっても負担が大きい。現在の支援の実態を伺う。</p> <p>(2) 雲南省は、事業所に委託をしているが、現状は事業所のボランティア的な支援に頼っている。福祉的支援を含めて聴覚障がい児の修学のために、事業所等の支援活動が成り立ち、社会的障壁除去のために合理的配慮の制度的構築を含めて対応は如何か伺う。</p> <p>(1)私たち党派明誠会では施設を点検・改善の提起を行い、建て替えなど改善が大き</p>	<p>健康福祉部長</p> <p>子ども政策局長</p>

質問 順位	会 派 名 質 問 者 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
		11.学童クラブの 待機児童解消につ いて	<p>く前進した。法改正によって小学6年生までの児童が利用対象として拡大され、今後も増え続けると考えられる。都市公園内の土地利用について敷地の3割以内が建築可能となった。加茂の児童クラブの隣接公園は建設が可能と考えるが如何か。</p> <p>(2) 指導員もそれなりの研修と待遇が必要であるが、現実には委託を受ける法人の運営自体も厳しい状況のようだ。保育所同様に質の高い学童保育の場の整備と処遇改善のための補助基準を引き上げること或いは単独支援が求められるが所見を伺う。</p>	
3	フォーラム志民 佐藤隆司 (一括)	1.地方創生の取り 組みについて	<p>(1)地方創生の着実な歩みについて</p> <p>①「第2次総合計画」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき飛躍の10年に向けての3年目であり、地方創生の実績が問われる。「総合計画」「地方創生」の歩みを力強く、より確かなものとするためには、市民とともに愈々総力を挙げて進めなければならないが、平成29年度の取り組みで市民にアピールされる点は何か。</p> <p>(2)定住基盤の整備について</p> <p>①子育て環境の充実は、多くの問題・課題の対応が遅れ、後手、後手に回っていると感じる。今現在、保育の待機児童がある現状や児童クラブの受け入れ抑制が発生するなど、「人口の社会増」を掲げプラチナ社会を目指すまちづくりや子育てをアピールするまちづくりは理解しがたい。地方創生の重点施策であり子育て環境の充実についての認識と今後更に求められている施策を伺う。</p> <p>②政府関係機関、企業、大学等を地方に移転することを、国が国策としてリードしていくことが東京一極集中回避と地方創生には必要不可欠だ。依然として中央集権的に進められているように感じるが、地方創生3年目を迎え国の地方創生に対する掛け声や施策に市長はどのような評価をされているのか。</p>	市長

質問 順位	会 派 名 質 問 者 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
		<p>2.地域包括ケアシステムの構築について</p> <p>3.学校教育施策について</p>	<p>③戦後 70 余年、東京をはじめ太平洋側を中心に国づくりがされ発展をしてきた。国土の均衡のある発展を目指す山陰新幹線の可能性は見通せない状況であり、市長は今後の国土軸のあり方についてどのような見解なのか。</p> <p>(1)地域包括ケアシステムの構築に向けてのあり方と現状において何が問題で課題なのか伺う。</p> <p>(2)「医療介護連携室」を新たに設置し、今後に向けて対応されるがその具体的な役割と今後目指される方向性について伺う。</p> <p>(3)健康維持・増進や病気などに対する予防活動は、ケアシステムに対する負担を軽減できることから、「健康づくり拠点施設」の役割は大変大きな力となると考える。しかし現状、市民の期待感は感じられない。拠点の設置の主旨や目的、役割や利用方法、会員登録の募集など周知が急がれ、健康拠点としての機運を醸成することが必要と考えるが見解を伺う。</p> <p>(1)平成 21 年度に「雲南市立学校適正規模適正配置基本計画」が策定されてから 8 年が経過している。「第 3 次雲南市教育基本計画」では、その「雲南市立学校適正規模適正配置基本計画に基づき、学校の統廃合などについて地域との合意を最優先にし、より良い教育環境の整備に努める」と記され、今後は計画の見直しも必要と記されている。</p> <p>①長寿命化計画策定に取り組むことが所信表明された。適正規模適正配置基本計画の具体的な見直しも合わせてされなければならないが見解を伺う。</p> <p>②義務教育学校制度を取り入れられる自治体があるが、市の今後の対応について伺う。</p> <p>③例えば加茂町の場合、小学校と中学校の校舎の老朽化による建て替えが将来必要</p>	<p>市長</p> <p>市長</p>

質問 順位	会 派 名 質 問 者 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
		<p>4.農業委員会の制度改正に伴う市の対応について</p> <p>5.永井隆記念館整備基本構想（案）について</p>	<p>となれば、義務教育学校制度を取り入れた小・中一体型の統合校舎建設を検討されることも必要と考えるが見解を伺う。</p> <p>(1)農業委員会制度が変わり1年が経過する中で、これまで市はどのような周知をされ、市民の理解度を高めてこられ浸透が図られてきたのか。</p> <p>(2)農業委員の推薦に向けての一連の業務を地域自主組織へ依頼されたが、地域自主組織の受け入れの対応や地域推薦に向けてスムーズに進められているのか。特に問題はなかったのか。</p> <p>(1)市合併1周年を記念し「平和を」の都市宣言は、世界の恒久平和を願い、世界にアピールする誇りある宣言である。市のふるさと教育の根幹にあるのが「平和を」であり、永井隆博士の「如己愛人」と上代タノ氏「故郷を愛す 国を愛す 世界を愛す」であると考えます。</p> <p>①永井隆記念館整備基本構想（案）では、「博士の愛と平和の精神を発信する拠点」をコンセプトに、加えてふるさと教育を発信する教育拠点施設の位置付けもされており、外国人対応や県内外の学校教育や生涯学習教育の場としての視察の受け入れや修学できる充実した施設とすることが求められているがそうした認識があるのか見解を伺う。</p> <p>②「永井隆博士の生い立ちの家」とのネットワークを構築すると記されているが「生い立ちの家」の整備方針は示されていない。今回の整備基本構想に、永井隆博士の生誕110周年を記念する施策展開の位置付けをし「生い立ちの家」などの有効な活用を目指す整備方針も示されるべきと考えるが見解を伺う。</p> <p>③そうした受け入れを考えると施設のアピールポイントが重要である。「永井隆博士」「平和を」などを象徴するモニュメントを建立する必要があると考えるが見解</p>	<p>市長</p> <p>市長</p>

質問 順位	会 派 名 質 問 者 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
		<p>6.島根原子力発電所に係る安全確保等に関する協定について</p> <p>7.重要課題 3 点セットについて</p>	<p>を伺う。</p> <p>(1)3 市足並みそろえての安全協定の締結は、高いハードルを越え大きな第一歩であると考えている。これまでの取り組みに敬意を表すが、立地自治体並みの協定内容とはなっていない。市長は「運命共同体」と言われ、1 2月には「原子力発電の安全性を徹底的に検証し、将来、原発に頼らない社会をめざす」と所信も表明された。「平和を」の都市宣言をしていることから、それを実現するためには更に高い大きなハードルがあり、今後の取り組みは重要度が増してくるがどのような姿勢で臨まれるのか。</p> <p>(2)「無線による伝達手段」についての方向性を出すとのことだが、一旦は、市域では難しいと判断をされたと認識している。再度予算を付けて取り組まれるのはなぜか。</p> <p>(1)これまでの大型プロジェクト（新庁舎・市立病院）は、事業の構想段階から市民に対して丁寧な説明がされてきた。今回の重要課題 3 点セットは、基本設計や基本計画まで取り組まれているが市民に対して丁寧な説明が不足している。飛躍の 10 年を目指される重要な事業が市民に示されない中で進められることがあってはならないが、なぜそのような手法をとられるのか市長の見解を伺う。</p> <p>(2)清嵐荘改築整備事業について</p> <p>①清嵐荘改築やビジネスホテルの誘致は、既存の宿泊施設にマイナスの影響を及ぼすことが懸念される。できる限りの共存共栄と相乗効果が図られなければならないが、そのためには既存の施設の修繕助成や宿泊者誘致の助成などが施される必要があると考えるが見解を伺う。</p> <p>(3)中心市街地活性化事業について</p>	<p>市長</p> <p>市長</p>

質問 順位	会 派 名 質 問 者 (質問方式)	項 目	要 旨	備 考
			<p>①中心市街地の形成に核施設として、ビジネスホテルの誘致が計画されている。専門的なデータや事業費が明らかにされないまま行政主導で進められているが、その費用対効果（b/c）をどのように把握されているのか。</p> <p>②「購買、定住・交流人口」のダム機能のための中心市街地活性化事業であるとの説明を受けているが、その中心的な「さくらマルシェ」への出店は当初の構想や計画に対して満足いくものとなっているのか。</p> <p>(4)食の幸発信推進事業について</p> <p>①農産加工グループや組織、団体の高齢化や後継者不足を危惧しているが、状況把握はされているのか、現状はどのような状況か。</p> <p>②食の幸発信推進事業で取り込まれる6次産業拠点施設はどのようなグループ、組織、団体から要望等があり拠点施設構想に至ったのか経緯について伺う。</p> <p>③検討委員会で事業の具体化に向けて検討されているが報告もなく進展がない。そのような状況が続くなら白紙撤回をする勇気も大事である。あえて提言するならば、子育て世代の期待に応える遊園地などを併設することがより市民目線に寄り添う施策であり、今の時代の需要にあっていると考えるが見解を伺う。</p>	